

新庁舎周辺等整備調査検討特別委員会 所管事務調査資料

(令和7年3月12日)

(事務調査)

① 庁舎周辺等整備事業について

1 新役場庁舎の主な変更点

(1) 事業費

建設費 2,977,000千円 (税抜) ⇒ 2,500,000千円 (税抜)

(2) 面積

延床面積 2,952㎡ ⇒ 2,800㎡程度

(1) 構造

- ① 木造 (一部鉄骨造) ⇒ 鉄骨造
- ② 経済性の高い10.8mスパン採用により鉄骨量・杭本数の減

(2) 建物計画

- ① 3階建 ⇒ 2階建に変更
- ② 各諸室の集約化による延床面積の減
- ③ 建物内を回遊できる動線計画とし、開口部面積・仕様を最適化
- ④ 水回り関連、機械室の集約化によるピット範囲面積の減

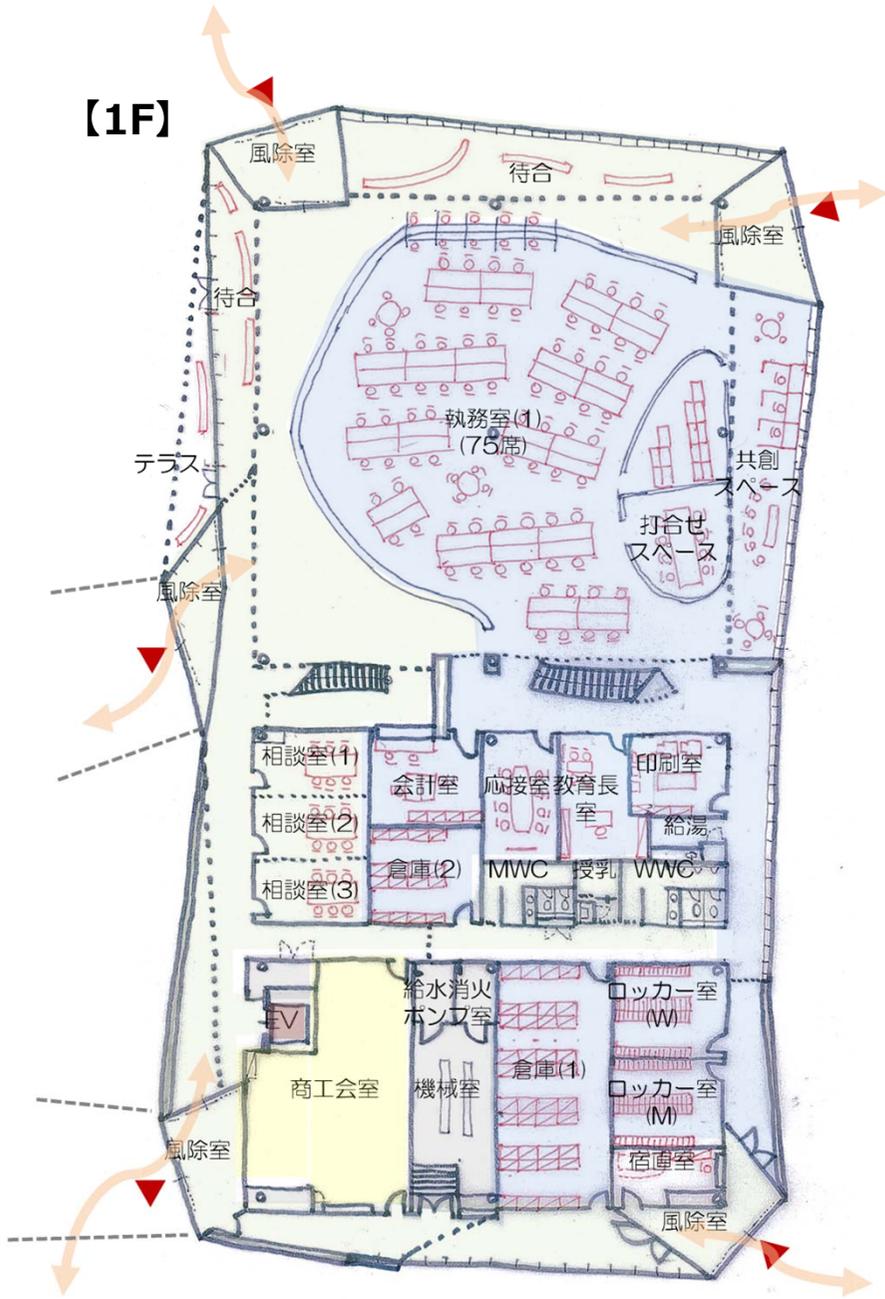
(3) 設備・環境計画

- ① 文化交流施設との一体的な設備システム ⇒ 新役場庁舎で独立した設備システムを構築
- ② 全館スプリンクラー ⇒ 屋内消火栓に変更 (構造見直しのため)

2 新役場庁舎の見直し案

階数	R6.4_基本設計(A)	R7.3_見直し案(B)	増減 (B)-(A)
1F	1317.8	1483.0	165.2
2F	1126.1	1317.0	190.9
RF	508.0	0.0	-508.0
計	2951.9	2800.0	-151.9

【1F】



【2F】



- 議会エリア
- 執務エリア
- 商工会エリア
- 来館者エリア (フリーエリア)
- 置き式サイン

※検討中の図面です。

3 文化交流施設等運営検討会議の検討状況①

【整備方針（基本構想・基本計画より抜粋）】

機能が連携・融合した施設づくり

図書、創作、研修、歴史・文化、交流といったそれぞれの機能が複合化・融合することで、新たな活動や交流の創出、新たな厚真の文化を育む場づくりをおこなう。

施設と広場が一体となった「まちのリビング」づくり

うち(施設)とそと(広場)が一体となった配置計画とし、町民にとってまちの“居場所”となる居心地の良い快適な空間を形成します。

町民が参加する施設の運営・活用

文化交流施設・(仮称)アイヌ歴史文化センターは整備して終わりではなく、町民自らが施設の運営や活用に参加する仕組みを構築します。

【施設コンセプト】

来館者にとって「居心地の良い場所」をつくりだす

【設計見直しの主な考え方】

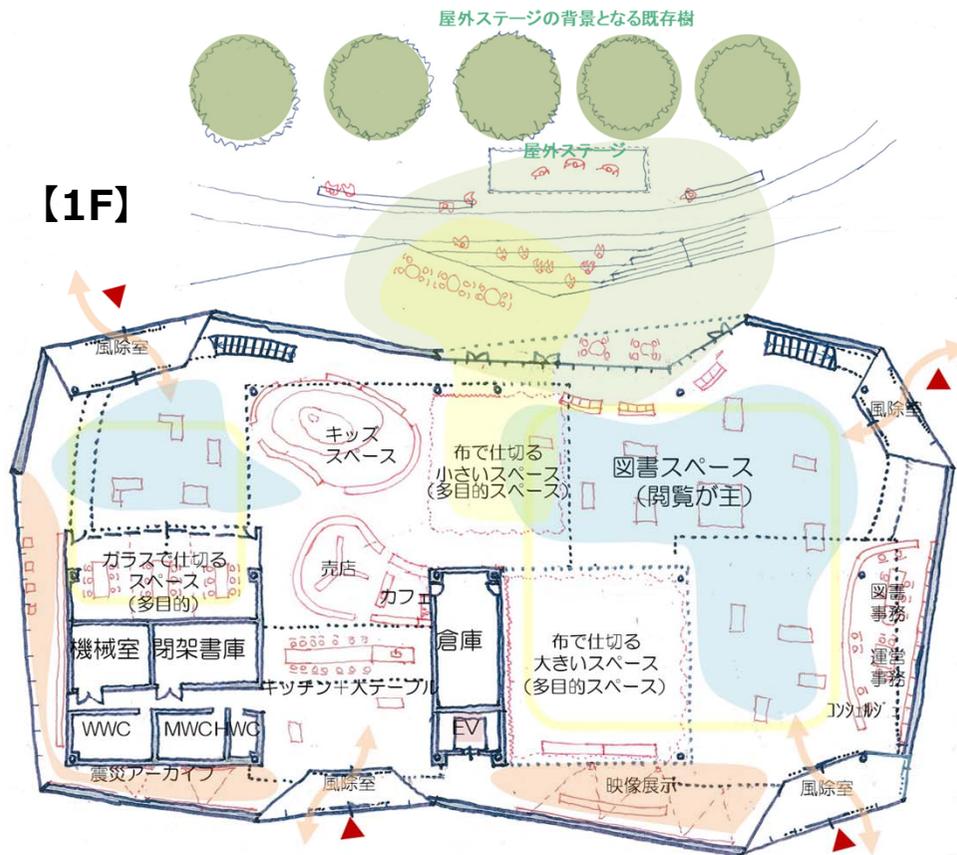
- (1) 庁舎周辺エリアの連動性や一体感を生み出すため、広場を中心に新役場庁舎や総合福祉センター、総合ケアセンターなどの関連施設全体で機能を最適化
⇒ 陶芸や木工をおこなう創作スペースや音楽活動等をおこなうスタジオを総合福祉センターに配置
- (2) 可能な限り使用用途を固定化させず、「誰でも何度でも行きたくなる場所」となるような施設とする
- (3) 施設内の各スペースの仕切り（壁）を減らすことで施設内の連動性・回遊性を高め、利用者の多様なアクティビティを誘発させる
⇒ プラネタリウム（個室）に変えて、多用途に使用することができるフルオープン型の映像展示スペースを配置
- (4) 施設の外周に複数の吹き抜けスペースを設け、上下階のつながりや施設と広場との一体感を生み出す

3 文化交流施設等運営検討会議の検討状況②

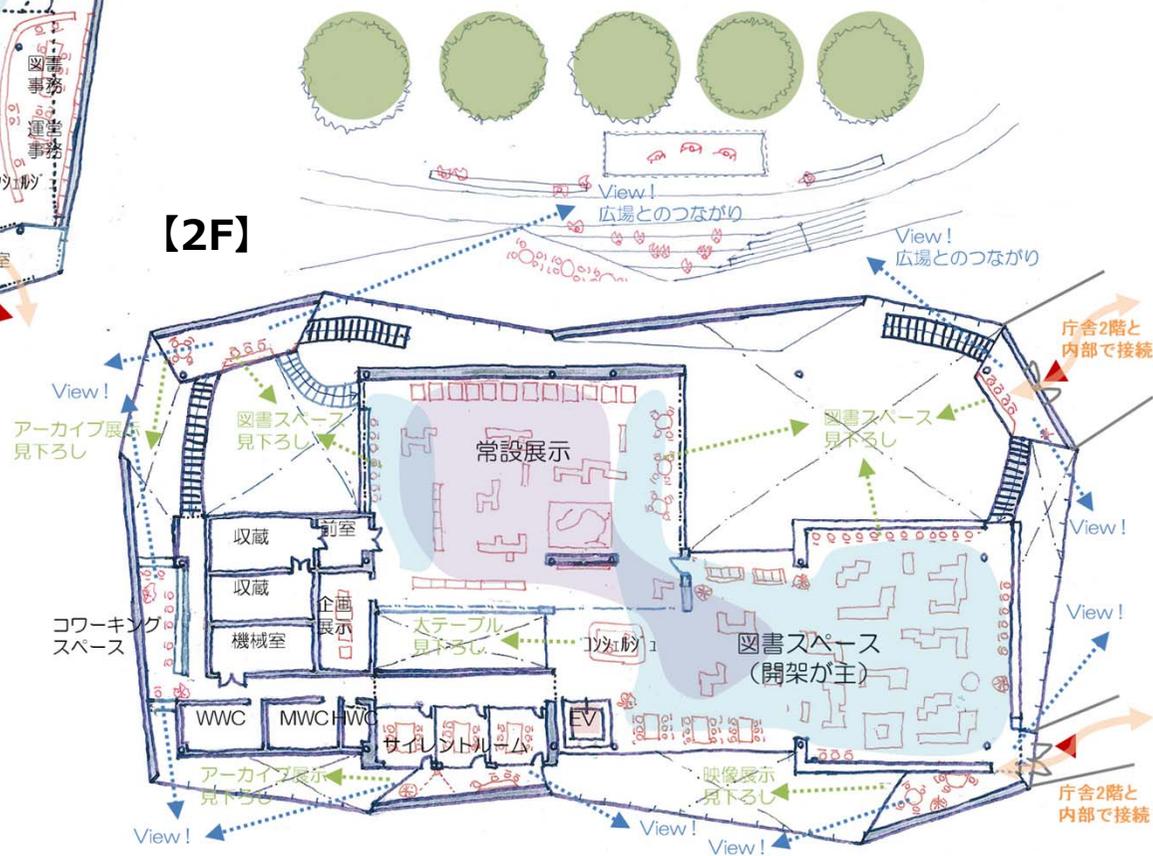
(単位: m)

階数	R6.4 基本設計(A)	R7.3_見直し案(B)	増減 (B)-(A)
1F	1559.5	1500.0	-59.5
2F	1354.6	920.0	-434.6
RF	54.9	30.0	-24.9
計	2969.0	2450.0	-519.0

【1F】

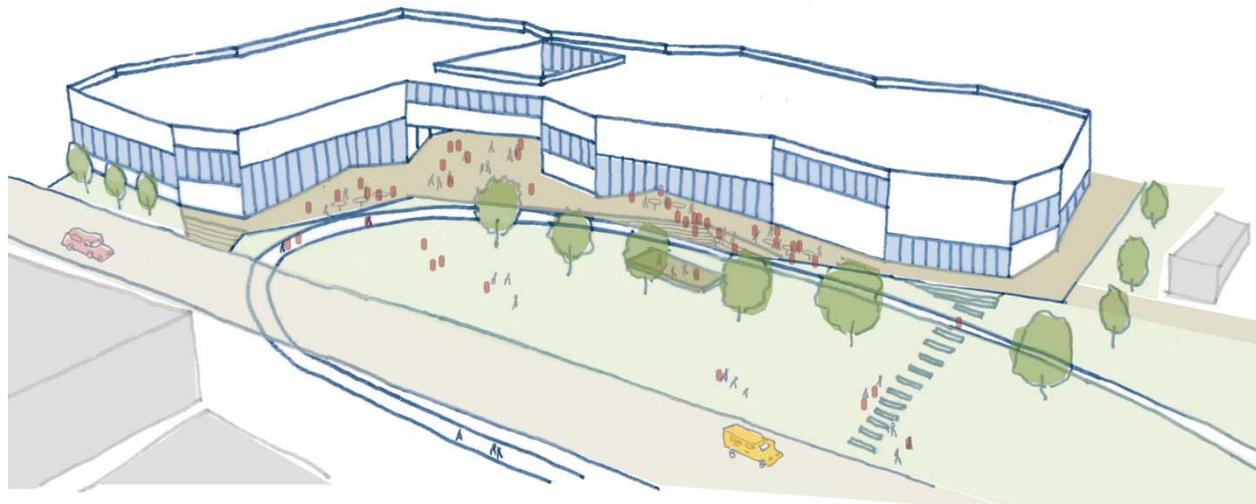
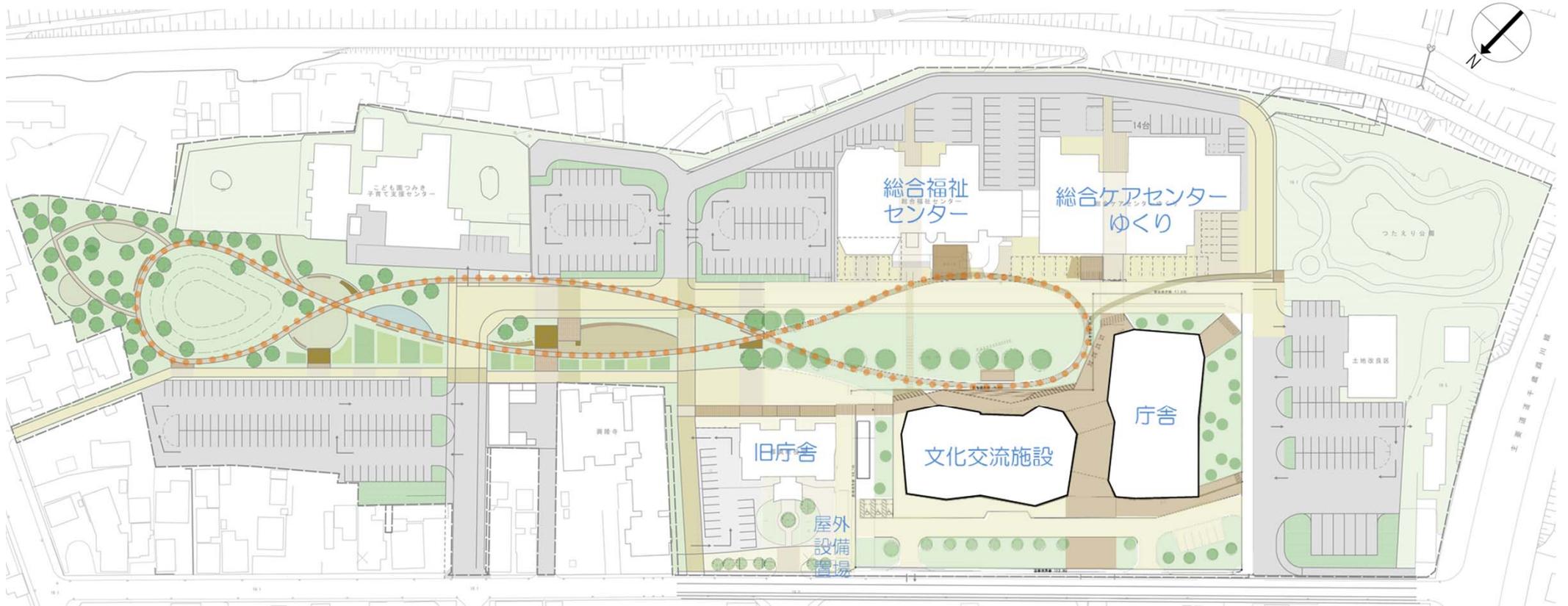


【2F】



※検討中の図面です。

5 見直し後の配置計画案



広場側俯瞰イメージスケッチ



外部テラスイメージスケッチ